

# 大阪城

2022  
4/11  
(月)  
14251  
号

全港  
西成  
分云

224  
6647-  
4947

アルミニウムがキロ 230円になったという。銅は  
250円、260円の値買のりもあるという。ロシアウクライナ  
戦争前、2月にはキロ170円だったから、割以上  
値上げをきている。アルミニウムをあげる人が多く  
なると戦争が激化していると言っていた。

ロシアを包圍して経済的に苦しめるという米  
欧日の動きだが、世界経済は混乱と激変を待  
ていきそうだった。日本は石油は買わない、しかし  
石油と天然ガスはしばらくは売って欲しい。シリア  
とサウジアラビアに投資して金を出した。ロシアウクライナ  
は金があったらなにかう続けたい、とけ、この戦争を  
要求している。今日から、ロシアとはサウとロシア  
漁業交渉が始まる。食糧も手に入りにくくなり  
そうだった。小麦、トウモロコシなども上っている。歯医者  
たちはロシアからパラジウムが入らなくなると仕事にならな  
いと政府に訴えている。世界ではスリランカ、インドネシア  
、エジプトはじめでも抗議行動、戦争が食糧物価高で  
生活できなくなると激化しはじめている。日本では、世紀  
の11年つづいた歴史的な乱が、後の日本を変えていくた  
が、ロシアウクライナ戦争は、アメリカなき世界の今後を  
ヨーロッパの変動を核として生み出している、そううな要素  
をはらんだものに思える。どうだろうか……

# 年度替りの端境期で仕事が無くなった？

ひと昔前には年度末工事が押し掛けてきて西成の現金労働市場が活況を帯びて大変になることがひとつの風物詩ともなっていました。

そして年度をまたぐと閑散となり5月の連休に6月の梅雨と言ふことで「端境期のアブレ地獄」を嘆くことになりました。

しかし最近では求人自体の基礎ペースが極端に低くなっているのでも「多くなったり、少なくなったり」といつても「気持程度のことなので」「仕事が増え。減った」と言っても労働者にとつてそんなに感じられるものではないかもしれません。

センターでの求人が伸びないのにはいろいろな理由があつて環境の変化・景気動向・センターの建て替え問題、雇用システムの多様化と変化、それにコロナの流行などなど個々の労働者にとつては不可抗力というか如何ともしがたい時代の宿命が押し寄せてきているので時代とともにひとつつつつ乗り越えていかないといけなくて簡単な解決策は無いようです。

当面コロナの規制が解除されて気持ち少しなごんできますが「第7波がきた」との観測もあり見通しの付かない状況が続きます。

## たまたまに戦争をなめるといふから。

「誰も止められない」「長期化の一方」とことんいくの「やめて」無力な市民のできることは知れていても声を上げることが大事「核戦争・全面戦争にしない」ためになにができるのか？」